

# ワークショップ結果について

## 1. 目的

基本方針の策定にあたり、委員の意見を踏まえた検討を行うため、ワークショップ形式による意見交換を行った。

## 2. 意見交換の方法

意見交換にあたっては、あらかじめ設定した9つのテーマに沿って、「これから取り組むべきと考えるアイデア」を個人ワークとして検討してもらい、すべての意見を模造紙に張り出した。

続いて、寄せられた意見の多さや委員意向を踏まえ、議論するテーマを以下4つに絞り、50分間のグループ討議を行った。

なお、時間の都合で議論できなかった残り5つのテーマについては、寄せられた意見に基づいて検討することを前提に、事務局に一任いただいた。

### ◆委員会にて議論したテーマ

- ・ 働く場を整える
- ・ 育てる場を整える
- ・ いのちを守る
- ・ 地域資源を活かす

### ◆事務局で検討するテーマ

- ・ 暮らす場を整える
- ・ 老後の暮らしを守る
- ・ 地域経済を守る
- ・ 協働する
- ・ 取組を伝える

### 3. 意見要旨

寄せられた意見の一覧は別添えのとおり。ここでは、各テーマごとに寄せられた意見を総括する。

#### 1) 働く場を整える

寄せられた意見の数、委員意向ともに最も多く、極めて関心の高いテーマであった。

意見で特徴的だったのは、雇用創出・起業支援両面において、農業への期待値が高かった点である。当市経済をけん引してきた製造業の伸びが頭打ちになる中、これから伸びる可能性がある産業として農業を挙げる声が多く見られた。これらに対する具体的な支援策としては、経営力ある農業法人の育成、吉田高校アグリビジネス科との連携、新規就農者への農地・機材リースといったアイデアが寄せられている。

その他の意見としては、工業団地の他産業利用、高校生等を対象に早期から起業マインドを育てていく取組や、引退した経営者等による起業支援といった意見が寄せられた。また、広島市が近い立地を活かし、ベッドタウンとしての機能強化(交通環境の改善)に関する意見もみられた。

#### 2) 暮らす場を整える

寄せられた意見には、清掃や公園整備等、美しい景観形成に関する意見が見られたほか、まちのコンパクト化に関する意見もみられた。

当初本テーマに寄せられると想定していた空き家活用に関する意見は見られなかった。この要因として、本テーマの分野例として「生活環境・都市基盤」と記載したために、「住宅」のイメージが湧かなかったものと推察される。

#### 3) 育てる場を整える

本テーマは「働く場」に次いで関心の高いテーマであった。

子育て支援の意見としては、経済的支援に関するものは少なく、地域や身内のサポート体制を強化していくアイデアが多く寄せられた。具体的なアイデアとしては、高齢者福祉施設との複合化による保育等が寄せられている。また、地域サポートをする上ではお互いの信頼関係を構築しておく必要がある、との認識から、他世代との交流機会創出を指摘する意見もみられた。

学校教育の意見としては、学力もさることながらグローバル力や実践力・コミュニケーション力の育成といった意見が多く寄せられており、小学校からの一貫教育、特区制度等を活用した独自性ある教育プログラムの実践といった具体策が見られた。

#### 4) いのちを守る

防災分野では、平時におけるソフト面の備えを挙げる声が多く、自主防災組織の活動活性化、ハザードマップ等の改善を指摘する意見が多く寄せられた。

特に、ハザードマップについては、「現地で危険を感じるエリア」と「マップ上で危険個所として指定されているエリア」の間にズレがあり、現地で危険を感じるエリアの情報を追加していく必要性を指摘する意見が特徴的であった。

医療分野においては、地域医療の核である吉田病院の維持・充実に向け、行政による経済的支援を指摘する意見が見られた。また、夜間・救急医療体制の充実を指摘する意見もみられた。

#### 5) 老後の暮らしを守る

高齢者福祉分野では、地域福祉に関する意見と生きがいづくりに関する意見が多く寄せられた。地域福祉においては、子育て支援同様、まずはお互いの信頼関係構築が重要であり、「もやい」の再構築を指摘する意見が多く見られた。

また、生きがいづくりでは、高齢者が社会・人と積極的にかかわっていけるような仕組みを求める意見が見られたほか、農業においても単なる家庭菜園にとどまらず、福祉施設への販売、産直市の活用等、社会と関わり収入にもつながるような仕組みの提案が見られた。

#### 6) 地域経済を守る

寄せられた意見は地域内需要の創出に関するものが多く、病院食や福祉施設、給食等の地元産品利用率を高めるほか、高校生等とタイアップした産直イベント、大手スーパーと連携した地元産品販売等の意見が寄せられた。

また、小規模店舗に対しては、地域通貨の活用等、ある程度の保護策が必要とする意見もみられた。

#### 7) 地域資源を活かす

歴史・文化面の地域資源としては神楽、元就、サンフレッチェのほか、甲立古墳を推す意見が寄せられた。また、豊富に存在する森林を活用したエネルギー供給、里山保全に関する意見も寄せられた。空き家については、住居としての活用はもとより、短期貸し(お盆、農繁期等)のような多面的利用に関する意見が寄せられた。

また、このような地域資源情報は、行政―事業者―地域等で共有できるような体制構築に関する意見も寄せられた。

## 8) 協働する

地域活動分野においては、市が人口次世代の確保を目指すのなら、地域振興組織もそこを目指して活動していくとの意見が寄せられた。また、地域課題解決に向け、振興組織と行政の更なる連携を指摘する意見もみられた。

多文化共生分野については、まずその活動内容のPRを行うとともに、「異文化の人が来たから何かする」ではなく、むしろ「来てもらう」意気込みで取り組んでいくべきとの意見が見られた。

## 9) 取組を伝える

PR分野では、PR専属部隊・部署の編成、出郷者との連携、マスコミ活用等により、PR体制を強化していく意見が多く寄せられた。

また、観光面では、ガイド養成や宿泊施設整備、安芸高田ツアー立案等、観光受け入れ態勢の強化に関する意見が多く寄せられた。なお、宿泊に関しては、イベント時等に民泊を受け入れる取組が進んでおり、その積極展開に関する意見も寄せられた。

テーマ	分野		意見
働く場を整える	雇用創出	求人PR	企業と行政の連携による求人活動
			Uターンされる方をターゲットにした情報発信
			既存企業のPR支援
			企業と地元住民の交流を進める
			事業所内を開放し、市民に見学の案内をする
			今ある働く場のマッチング促進
		市外勤務者支援	都会に働きに行く人と地元に住む人の行動をスムーズにする取り組みを考える。(通勤料金補助等)
			広島市内へのアクセス強化(佐東バイパス祇園新道の利用)
			広島市内のベッドタウン化(広島電鉄との連携)
			広島(広域都市圏)隣接し交通のアクセスの強みを活かした定住策“仕事を外に求める”
	企業誘致	専任プロジェクトチームによる企業誘致	
		当市の企業立地適応条件明確化	
		工業団地の他産業利用	
		都市圏とのアクセス環境を整え利便性を伝える⇔他地域への流出懸念	
本社との連携強化、研修等の受け入れ			
企業誘致・支援に対するソフト対策の充実			
農の企業化	起業や規模拡大を目指す者へ農地(休耕地・耕作放棄地等)を無償で提供する制度を検討		
	農地法の制約がネックのため、農業生産者の法人化・農地の大規模化が必要		
その他	病院・学校・福祉施設等の地元採用推進		
起業支援	起業家育成	起業家を育てるシステムの確立	
		高校生の起業家応援	
		目的意識の高い人の誘致	
		地元高校と連携し、起業家を育成(高卒後起業、地元で働く)	
		退職者による起業家支援	
		財政支援よりソフト面の相談支援	
	農業の担い手育成	新規就農者への支援	
		JAの資金支援の充実	
		吉田高校アグリビジネス科の存在を活用	
		新規就農者への農地提供	
		地域おこし協力隊の有効活用	

テーマ	分野		意見
暮らす場を整える	生活環境	公園整備	サイクリングコース・ジョギングコースをつくる 未利用地、河川敷等を公園として整備(緑化を含む)
		清掃・美化	挨拶運動・花いっぱい活動を起こす 道路側溝の清掃。法面、あぜ草、枝打ち…高齢者、地域おこし隊活用 クリーン作戦の展開
		コンパクト化	利便性の良いコンパクトシティの実現 吉田町を中心に物を考える
		公共交通	交通手段の整備 交通網の確立(公共機関+お助けマイクロ)
		情報通信	お太助フォンをTV画面に接続する お太助フォンを活用した市民生活の支援
		水道	市街地の公共水道の完備
		育てる場を整える	子育て支援
地域での支援	職場と保育所と老人福祉施設の融合、一元化 登下校の見守り等、積極的に児童・生徒に関わる 向原福祉施設が中心部に。高齢者・子どものふれあいの場に 送り迎えの中間地点で学童保育を。通学路に地域との接点を設ける 地域の見守りで顔と名前がわかる関係へを築き、安心して外で遊べる環境をつくる		
信頼関係の構築	地域行事に子供の参加を 多世代の交流の場が必要		
共働き支援	母親が安心して働けるまち(託児所の充実。小児医療) 子育て世代が働けるよう、施設を充実する		
身内のサポート支援	夫の子育てへの参加 子育て、介護を人に任せなくても親と同居なら可能		
その他	生活のリズムを壊さない為にも親の教育力が必要 田園保育園、山林保育など		
学校教育	一貫教育		
	グローバル人材の育成		世界にしっかり目を向けた教育(世界に通用する人間づくり) 外国文化や人との交流 外国との姉妹校(留学体験をより多くの子に)
	実践力とコミュニケーション力の育成		実践的・技能的科目の重視 基礎学力とコミュニケーション能力の育成 実践的で進学のための教育でない市独自の教育システム(特区)をつくる→市立高校
その他	学校規模の適正化 卒業生(大学生等)に市内学校で夏期講習授業をお願いする 核家族で人を大切にする部分が少ないので先生の教育も必要		

テーマ	分野		意見		
いのちを守る	防災	自主防災組織	全ての地域・集落に自主防災組織の早期設立 各地域の自主防災活動レベルを平準化する。行政の委託組織の一部間と位置付ける 地域の防災活動を活発化する組織づくりをする 防災組織の活動には地域差あり。甲田は過去の教訓から盛ん。歴史を振り返るのもよい。 広島災害を受け、地域防災の見直しが必要		
		既存ハードの点検	既存堰堤が機能するか？		
		ハザードマップ等改善	危険箇所。避難所の再確認 降雨後に見回ると危険箇所でないところで水が出ていたりする 小学校の通学路が危険であり避難場所になれず、トイレの少ない集会所が指定されている 災害時後方支援拠点と体制の整備(道の駅、ボランティアネット)		
		防災無線の再整備	防災無線の復活 沿線の窃盗やクマの出没情報はお助けホンでわかるが、家の中でしか聞こえない。		
		医療体制	他機関との連携	市外の医療との連携をとる 地域振興会(自助)-行政(公助)、消防・警察・医療(共助)の一体化 医・福・保の更なる情報共有と協力体制確保	
				吉田病院の維持・充実	JA吉田総合病院の充実、勤務医の環境改善、患者の要望に応えるため診療内容の充実 救急病院のランクが上がると医師が集まりやすくなる。いい医者が集まるところに人も集まる。 民間ゆえ行政の資金的支援少なく、補助金も使いにくい。市が積極的に支援すべき。
				夜間救急体制の強化	初期診療がしっかりできる体制を整える 小児医療、夜間緊急時の診療 夜間救急は個人医が対応している
			高齢者福祉	介護福祉体制の充実	多職種連携を今以上に進めていく 専門医との連携 子ども世代との同居、地域内居住
				地域見守り	あじさいネットを利用して一人暮らしや高齢者の健康と安全性を守る 一般市民が認知症への理解を深める
				絆の再構築	絆を深めるための活動(生活共同体の再構築・小地域での支援・協力体制) 集落から地域へそして市全体の「もやい」の再構築。手段として恵まれた自然、人の優しさを活用する 「もやい」(祭り、イベント)の復活
老後の暮らしを守る	生きがいづくり	高齢者の活用 各地でサークル活動を活発化 小地域でのサロン活動 趣味を発見できる環境づくり やすらぎ・楽しみ等精神面の支援 高齢者の積極的な参加が出来る仕組みづくりを行う 高齢者に、少しでも多く社会との交流の場を提供する 農業・家庭菜園こそ最高の高齢者福祉 農家と福祉施設をつなぐ。施設の食料は地元100%を目指す。余った野菜を施設が買い取る。 生きがいの発見(趣味など) 生涯学習講座を地域に充実させる 積極的にかかわることのできる仕組づくりをする			
		保健	健康づくり	健康で元気な方を応援する仕組、健康寿命への取組 身体を動かす環境強化 健康寿命の延伸・認知症予防	



テーマ	分野		意見
地域経済を守る	農林水産業	横の連携	地域農業を守るため結集して取り組めるものを行う
		地域内需要の創出	病院食や福祉食の材料を地元産にする 大型スーパーでの地元産品販売 産直市の充実・発展をはかる 高校生レストラン、学生マルシェなど
	商工業	小規模店舗の保護	市街地小店舗の再編と活用 個人経営の店を増やす。金の地域内循環、地域通貨の導入 個人経営店が有利になるような条例整備 地元民であれば安く利用できる商店の整備
		経営者のニーズ把握	行政の企業訪問回数を増やしニーズを把握する
地域資源を活かす	歴史・文化	神楽の維持	神楽団は地域が守る。人口増の起爆剤になる。
		古墳の活用	甲立古墳、稲山古墳、郡山は保存だけでなく観光資源に活用
		スポーツ振興	市民の健康づくり、市民スポーツの振興(ラジオ体操、ウォーキング、グランドゴルフ) サンプレッチェ、湧永を活かす スポーツ施設を市外の住民へも開放する(広島市からの要望あり) サンプレッチェ、湧永と地元との関係強化
	自然	里山活用	里山整備 未利用材を燃料にするなど地域資源の活用 森林整備、材木の利用 未利用資源を再生エネルギーとして活用
	ストック	空き家・民家活用	ハンドボール大会、神楽甲子園で民泊を実施し、リピーターが増えている 空家の多面的活用(フリーハウス、盆・農繁期宿泊など)
その他	地域資源掘り起し	各町の特性を活かした計画づくり 地域点検マップづくり(住民ワークショップで愛着心向上)	
	情報の共有	行政の持つ情報のオープン化→安芸高田アプリ開発 行政とJAor地域組織で情報共有出来る体制を作る	
	無駄の削減	現在の活動を整理し、重複した活動をなくし、内容の充実をはかる 各分野がバラバラに動くのではなく、一体化して運営する 今のインフラの維持・修繕、新しいものはなるべくつくらない	
協働する	地域活動	地域振興組織の活性化	地域振興会と行政の一体化を具体化する 地区の振興会を活用し、地域課題を地域別に検討 地域振興組織の目的を「地域の人口増加」とする 振興会を改組し、住民自治組織への移行 市から地域振興会への支援と協力をもっとすすめていく
	多文化共生	多文化共生の推進	活動内容を市民に理解してもらう努力が必要 外国人の子供達への教育の充実 内容のある行事を年2回程度持つ 外部人材の受入 もし外国人を労働者としてのみ捉えるなら、多文化共生は失敗する 多文化を受け入れる環境づくり。「来たから」→「来てもらう」へ



テーマ	分野		意見
取組を伝える	PR	PR部隊の編成	安芸高田観光キャラバン隊を設立し、都市部でPR活動をする
			情報発信ステーションを設け、組織化する
			情報発信ステーションをつくる(情報の流れの概要を作る)
		出郷者の活用	地元出身タレントの活用
			地元出身、他出者へのラブコール、PR
			旅行会社に勤める地元出身者を活用する
		マスコミ活用	インターネット、テレビなどのPR方法を整えて、安芸高田市をアピールする
			イベント等の広報の一方通行に気を付ける
			市独自の支援方法を全国の若者へ発信
	県広報PR強化		
	大胆な取り組みをしてマスコミに取り上げてもらう		
	観光	安芸高田ツアー	安芸高田市内の観光ツアー構築
			他の市・町へ安芸高田市の歴史文化に関わるツアーを組む
		ニーズ把握	ターゲットのニーズの把握
ガイド養成		地元ボランティアガイドの養成(吉田をモデルに)	
他地域連携		宮島の外国人を郡山へ誘導	
		広島市・三次市との関係を深める動きをしていく	
宿泊施設整備	ビジネスホテルの整備		
その他	委員会の在り方	委員会の在り方	女性、高校生、若者の委員会参加
			行政の積極参加
			実際子育てをしている女性参加
			この会のメンバーに実際子育てをしている女性の参加を望む。
			中高生との意見交換会
			アンケートだけでなく、若い人のリアルな話・意見が欲しい